

北海道浮魚ニュース

令和6(2024)年度8号

2024年7月31日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報発表される

7月31日、第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は太平洋海域を対象とした漁期前半(8~9月)の予報です。

なお、この予報は国立研究開発法人水産研究・教育機構と太平洋側道県の水産研究機関が参画し、水産研究・教育機構がとりまとめを行いました。予報文の全文は以下のサイトでご覧になれます。

水産研究・教育機構 (<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>)

「我が国周辺の水産資源の評価 漁海況予報」 (<http://abchan.fra.go.jp/gk/>)

今後の見通し (2024年8~9月)

対象魚種：スルメイカ

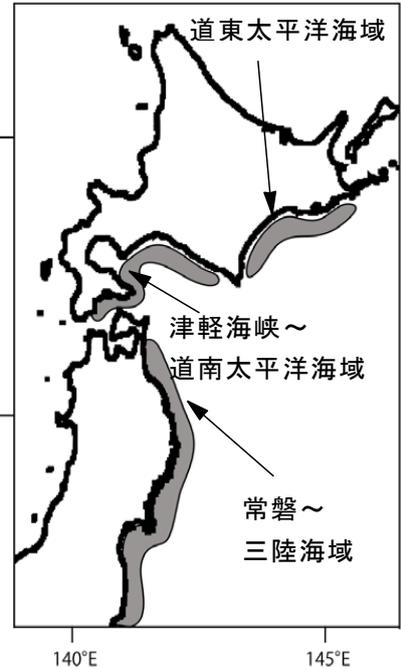
対象海域：太平洋(常磐~三陸海域、津軽海峡~道南太平洋海域、道東太平洋海域)

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群(2024年級群)

- ・道東太平洋(小型いか釣り、底びき網)：来遊量は前年並。漁場形成は散発的で明瞭な主漁期はない。
- ・津軽海峡~道南太平洋海域(小型いか釣り、定置網)：来遊量は前年を下回る。対象期間を通じて漁場となる。
- ・常磐~三陸海域(小型いか釣り、底びき網、定置網、まき網)：来遊量は前年並。対象期間を通じて漁場となる。

※文中の「前年」は2023年のことです。



・漁況は5月下旬~7月上旬に実施した太平洋及び日本海の第1次漁場一斉調査(函館水試調査分は浮魚ニュース第5号、釧路水試調査分は浮魚ニュース第6号参照)及び函館水試による日本海スルメイカ北上期調査(浮魚ニュース第2号参照)の結果(以下「いか釣り調査結果」と、各港の漁獲状況から予測されました。

・いか釣り調査結果では道南太平洋・常磐~三陸海域ともに漁獲がなく、道東太平洋海域における分布密度も非常に低い値でした。津軽海峡を通じた日本海からの来遊も前年を下回ると予想されます。各海域での漁獲も低調に推移していることから、今回の予報期間における太平洋各海域でのスルメイカの来遊水準は低く、低調であった前年並か前年を下回ると考えられます。

・道東沿岸域の水温は前年より高く推移すると予想されています。

(釧路水産試験場調査研究部 TEL: 0154-23-6222、FAX: 0154-23-6225)